

福岡県教協 第75次教育研究活動を充実させよう！

福岡県教職員組合連絡協議会（県教協）は「教え子を再び戦場に送るな」の不滅のスローガンを掲げ、「平和・人権・環境・共生」を基底にすえながら、教育研究活動にとりくんでいる。そして、今次のとりくみの重点は『教研への参加者とレポート報告数を増やそう』である。

25年3月の県教協委員会で決定された方針を踏まえ、6月11日に第1回教研専門委員会を開催し、以下のように分科会ごとに大切にしたいこと（アピール）をまとめた。それぞれの分科会が重視している視点を大切にして、日常の教研活動にいかしていこう。

①日本語教育 分科会

子どもたちの言語環境は、SNSの発達により、短い文を読んだり、相手の気持ちを考えず自分の考えを発信したりすることが多く見受けられます。そのような中で、文学作品を深く豊かに読んだり、生活の事実を書いて読み合ったりする授業を展開し、子どもたちの読む力や表現力・認識力を高める実践を持ち寄り、議論を通して学び合いたいです。

②外国語教育 分科会

教科になって6年めの小学校、教科書が変わった中学校。それぞれの授業の進め方や小中連携の仕方などで困ったことはありませんか？近年の世界情勢を深く考慮し、英語をはじめとした外国語を通して、平和・人権について共に学び、それらを尊ぶ生き方へとつなげていく授業をつくっていきましよう。ぜひレポートを持ち寄りたいです！

③社会科教育 分科会

誰もが生き生きと暮らせる平和で民主的な社会を築いていくためには、人権侵害などの社会の課題を見抜き、その課題を解決する手立てと解決する力をもった子どもの育成が重要です。目の前の子どもたちを中心に据えた授業実践をもちより、子どもたちの豊かな学びの実現にむけて学び合いたいです。

④数学教育 分科会

「ネット上のテキスト情報しか収集せずにもっともらしい回答をする生成AIに翻弄されず自分の頭で考え自分で確かめる実践の創造」をテーマに①日々の授業で見られる子どものつまづきや認識の誤りの原因、②教科書通りにやってみたけれど、うまくいかなかったこと

⑤理科教育 分科会

「理科の授業は大変」と小学校の教員の話をよく聞きます。「この実験は、どうしたらうまくいくかな」と中学校の教員のつぶやきが聞こえます。理科分科会ではたくさんの実践や実験・観察が報告されます。授業のアイデアや方策があふれています。「なるほどな」と理科の実践への意欲がきつと沸いてきます。

⑥美術教育 分科会

混沌とする社会・教育の情勢の中で揺れ動く児童生徒の内面は、「わくわく楽しい授業」自己表現が認め合える場を求めています。美術教育を通して、美しいものを美しいと感じる感性を培い、人と人をつなぐ心と心をつなぐ教育を実現するために、「平和」「人権」「環境」「共生」を軸として、実践と研究を重ねていきたいと思います。

⑦音楽教育 分科会

音楽教育分科会では、子どもたちが安心してのびのびと自己表現する中で、内面を耕し人と人となつて、心を豊かにすることをめざしていきます。子どもたちの背景を理解し、豊かな表現をひきたすために、子どもたちの生き生きとした姿が見えるような実践を持ち寄り、学びを深め合いたいです。

⑧生産技術教育 分科会

74次教研では「生物育成」「エネルギー変換」「材料と加工」「情報」に関する多様なレポートが4本、報告されました。各地における地道な実践を大切に、若い世代をはじめ小学校や臨時免許の教職員にも参加を呼びかけ、悩みや苦労話を出し合いながら組織の拡大・強化をめざし、県教研活動を盛り上げていきたいと思います。

⑨家庭科教育 分科会

この分科会では、「私たちは、なぜ家庭科を教える？」など、根本的な疑問を大事にしながらか協議します。

その中で、家庭科教育が子どもたちの未来にいかに必要な教科であるかとともに、内容の奥の深さ、視点の大事さが見えてきます。若い方を誘って、レポートを持ち寄りたいです。

⑩保健体育 分科会

私たちは保健体育という教科を通して、子どもたちに何を学ばせたいのか、そして一人ひとりが輝くために何が必要なのかを考え、自主編成のとりくみを再構築していく必要があります。

「なかまづくり」の視点を大切にしながら脈々と引き継がれてきた教研体育のとりくみをこれから

⑪学校保健 分科会

自分たちのとりくみをふりかえり、子どもたちの健康にかかわるさまざまな問題（感染症・集団フツ化物洗口・健康診断など）から、学校保健をどう推進するのか考えていきます。子どもたちの未来のために多くの人とつながり、県内各支部・市教組のとりくみから学び、語り合い、実践へとつなげていきたいと思います。

⑫子どもの自主活動と自主的諸活動 分科会

これからは、
どんなの？
もんだい山積み！
のびのびできない！
じつくりと時間をかけて
しゅうだんづくりを
かんがえ 悩み 交流して
つなげて
どきゅメンタリーを
うみだそう！

⑬総合学習・生活科・教育課程と評価 分科会

教科・領域の枠を超えて教育の本質にかかわる深い議論を重ねている分科会です。「わたしたち自身の学びを深めること」にこだわっています。全国教研では、「総合学習と防災・減災教育」「子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育」とカリキュラムづくりと評価」分科会とつながっていて、分科会名に入っていない「食教育」や「道徳」についても実践交流をしています。どんなレポートでも受け入れることができます。レポートお待ちしています。



⑭平和教育 分科会

子どもたちと未来を語ることでできる『平和教育』の創造と継承を

昨年の県教研集会の日に、本当にうれしいニュースが飛び込んできました。日本被爆者団体協議会のノーベル平和賞受賞決定。しかし、世界はそれとは真逆の方向に舵を切るうとしています。

ロシアのウクライナ侵攻から3年2か月が経過しました。ガザの状況は日に日に深刻さを増し、どうすれば和平が実現するのか、その糸口さえも見えてきません。日本政府は中国の脅威や台湾有事を声高にあり、九州や南西諸島の軍事強化を着々と進めています。「武器」で平和は守れるのか、私たちは改めて声を上げ、多くの人びとと語り合い、行動しなければなりません。

私たちができるのは、子どもたちや仲間と「平和」を構築する学びをつくり出すことです。1973年の福教組定期大会で一斉平和授業のとりくみが提起され半世紀がたちました。この間、さまざまな実践が積み重ねられてきましたが、そのことが現場、若い教職員、さらには子どもたちにとのよう受け継がれているでしょうか。

私たちは今こそ、その検証も含め、平和につなげる実践を積み上げていかなければなりません。未来を創る教育として、『平和教育』のさらなる広がりや深化につながる実践やとりくみを、敗戦・被爆80周年を迎える75次教研では持ち寄り、議論しましょう。

⑮ジェンダー平等をめざす教育 分科会

70年代に女性の人権確立をめざし「女子教育もんだい」としてとりくみが始まりました。現在は、性別に関わらず全ての人の人権確立

のために①経済的②生活的③精神的④性的の四つの自立の力をつけることを目的としています。だれもが個性と能力を発揮し、多様な実践を進めていきましょう。



⑯「しようがい」児教育 分科会

当事者の思いを受け、「共に生き、共に学ぶ」という目標を見失うことなく、子どもたちのなかに豊かな関係性を創り出したい。

「特別支援学校」「特別支援学級」の在籍児童生徒の増加等についても、私たちの現場から本音や悩みを出し合い、とりくみの方向性を明らかにしていきたい。

⑰人権教育 分科会

「人権教育」分科会は、部落問題をはじめとする様々な人権問題に対し、目の前の子どもたちの事実から出発し、たとくみとくみを共有することで、世代交代の課題の解決にも資するものになっています。

自らの立ち位置と実践を振り返り、論議を通じて、自らの教育活動に生かしていく分科会にしていきたい。

⑱教育条件整備の運動 分科会

教育条件整備の運動分科会では、「就学・修学保障」をはじめ「学校の安全確保」「子どもの貧困」「学校の超多忙化」等、今最も問われているテーマに関わって論議を繰り広げます。

教育条件整備の運動を広げるために、様々な立場・職種の観点からのレポート報告やご意見を待っています。

⑲民主的な職場・学校づくりと地域連携 分科会

本年度話し合われる内容として以下の内容を期待します。

《超勤・多忙化が常態化している学校現場の実態と、それに抗する「働き方改革」のとりくみ》《組織拡大・強化のとりくみ》《学校規模を生かして地域と連携する教育実践》《一人の保護者・地域とつながることから始める「語る会運動」のとりくみ》《各自治体におけるICT教育の実態》

立派なとりくみ報告でなくて構いません。職場における悩みやちょっとした実践を持ち寄りましょう。保護者・地域と連携し、平和憲法と民主教育を守る原点に立ち返り、今次教研をその第一歩としましょう。

教教研への参加者を増やそう！

レポート報告数を増やそう！